

長278海Ⅱ99参考資料2-3

委員	ページ	行数	文章	意見等	回答(案)
加納委員	2	37-40		<p>「今回は、従来の地震時の地殻変動の観測値を用いた時間予測モデルから、その観測値に幅があること(不確定性があること)と観測誤差があることを考慮して」の「地殻変動の観測値」は違和感があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 史料からの情報は(現代的な)「観測」「観測値」とは意味合いが異なる 実質的には(室津の)隆起量だけ <p>と考えるからです。</p> <p>これまでの資料のことばだと、「隆起量データ」が対応すると思います。 第二版では「室津港(高知県)の隆起量」や、「地殻変動のデータ(室戸半島先端の室津港の潮位観測データ)」などとなっています。</p> <p>文言については今後修正があると思うのですが、案としては 「今回は、従来の地震時の室津港(高知県)の隆起量を用いた時間予測モデルから、その隆起量の推定値や観測値に幅があること(不確定性があること)と誤差があることを考慮して」などとするのはどうでしょうか。</p>	ご指摘のとおり修正します。
岡村委員	8	19-25		<p>評価文の「5.今後に向けて」についてコメントをお送りします。</p> <p>南海トラフでは多様な地震が発生してきたことは明らかですが、多様な地震が発生するメカニズムを解明することが、長期評価の精度を向上させるために不可欠だと考えています。瀬野さんが2012年に宝永型と安政型が独立に繰り返していると提案され、私もその論文に触発されて宝永型と安政型が発生するメカニズムを提案したことがあります。それらの考えを長期評価に取り入れる段階ではないと思いますが、異なるタイプの地震がそれぞれ繰り返すことによって多様な地震が起こっている可能性が明らかになってくれば、南海トラフの長期評価の考え方も大きく変わると思います。</p> <p>具体的な修正案として、最初の「過去に起きた地震像を明らかにするための調査研究の推進」の中で過去の「地震像を明らかにする必要がある。」という部分を「地震像を明らかにし、多様な地震の中に複数のタイプが存在するか検証する必要がある。」と変更するのはいかがでしょうか？</p> <p>ついでですが、上記の部分の後ろに「最大クラスの地震が過去に起きていたか否かは、極めて重要な情報である。」とありますが、これが「極めて重要」とは思えません。そもそも「最大クラスの地震が過去に起きていたか否か」を証明することも否定することも不可能でしょう。そこに労力をかけるより、異なるタイプの地震の有無を検証することの方が価値があると思います。</p>	ご指摘のとおり修正します。